

# 府中市教育委員会会議録

1 開会の日時

令和5年8月18日（金） 教育センター 会議室  
（令和5年第9回） 13時30分 開会

2 出席委員

荻野教育長、高橋委員、和知委員、森山委員、藤井委員（5人）

3 委員以外の出席者

門田教育部長 大森教育政策課長 大川学校教育課長  
津田学校教育課主幹 小寺学校教育課主幹 竹内学校教育課主幹  
和田教育政策課教育推進係長 大垣学校教育課主査

4 会議に付した議案の題名

第19号 府中市教育委員会外国青年公舎管理規則の一部改正について  
第20号 令和6年度小学校及び義務教育学校前期課程で使用する教科用図書の採択について

5 審議の大要並びに結果の概要

議案2件について審議を行い、同意の議決を得た。

6 議決事項

議案第19号 可決 議案第20号 採択

7 協議事項

なし

8 報告事項

なし

9 その他

次回 8月22日（火）午後1時30分～

18時15分 終了

## 教育委員会会議（9回）

教育長        それでは、皆様こんにちは。厳しい暑さが続く中ですが、今週は台風等の影響もあり、落ち着かないお盆を過ごされたのではないかと思います。各学校では、今週14日から16日を一斉閉庁日としまして、来週中旬までは夏期休業日となります。

      さて、本日は、小学校及び義務教育学校前期課程で使用する教科用図書の採択という、府中市教育にとって、今後の取組みを左右する重要な、そして、審議に時間を要する議案がございますので、早速ですが、令和5年第9回教育委員会会議を開会いたします。

      まず、会議録署名者の指名をいたします。和知委員、藤井委員、よろしくをお願いします。

      （はいの声）

教育長        それでは会議録の承認に入ります。前回の会議について事務局の報告を求めます。和田係長。

和田係長     失礼します。令和5年第7回会議及び第8回会議について報告します。

      第7回会議は、令和5年6月30日（木）午後1時30分から教育センター会議室において、教育長、和知委員、藤井委員、森山委員と門田教育部長他、事務局7名の出席によって開会いたしました。

      議案は2点で、委員の委嘱、任命に係るものでした。

      議案第16号 府中市図書館協議会委員の委嘱について、第17号 府中市学校給食センター運営協議会委員の任命について、異動に伴うものであることを確認し、可決しました。

      協議事項としましては、令和5年度教育委員学校訪問に関わり、やり方を含めて、訪問を通じての気付き、次回に向けての改善点等について協議を行いました。

      報告事項としましては、荻野教育長から、新聞報道のありました県立高校の在り方についての報告があった他、門田教育部長からは、府中市議会6月定例会の概要の報告、教育政策課長からは、令和5年度府中市学びフェスタについて、府中市教育振興基本計画のパブリックコメントの状況について、そして、学校教育課長からは、学校の状況等について、生徒指導について、府中市グローバル教育スーパーバイザーの任用についての報告がありました。

      その他の事項として、令和6年二十歳を祝う会の日程等について報告をし、次回開催日程を確認しました。会議の全てを14時27分に終了

しました。

次に、第8回会議、持ち回り決済についてです。令和5年6月30日付けで、議案は1件です。議案第18号 第2期府中市教育振興基本計画の策定について、教育推進係長が教育委員の皆様説明をし、同意を得て可決しました。以上です。

教育長 それでは、会議録の承認を求めます。ご異議ございませんか。  
(異議なしの声)

教育長 ご異議なしと認めます。会議録を承認いたします。

教育長 それでは、本日の議案に移ります。

本日は、議案が2件で、教育委員会規則に関するものが1件と教科書採択に関わるものが1件です。

議案に入る前に、教科書採択に関して会議の公開・非公開について、お諮りしたいと思います。府中市教育委員会では、人事案件の場合等を除き、教育委員会会議は原則公開としておりますが、教科書の採択については、その都度、公開・非公開をお諮りしまして、委員の皆様のご意見をお伺いした上で、非公開として審議をいたしました。非公開と言いましても議事録で発言者、発言内容、採択結果等を全てホームページ上で公開をしております。教科書採択の会議において、意思決定の過程を市民の方に見ていただく機会をしっかりと設けて、情報公開の観点から、できる限り公開が望ましいということで、近隣の市町も公開の動きになっているという現状があります。そういった現状もありまして、教科書採択に係る会議を公開とするか非公開とするか、ご議論をいただきたいと思っております。ご意見いかがでしょうか。

和知委員 情報公開の観点から、できる限り公開が望ましいと考えていますが、皆さんいかがでしょうか。

(同意の声)

教育長 それでは、ただいま和知委員、また、皆様から公開がよいのではないかという意見、同意がありましたので、議案第20号の教科書採択に関する議案の審議につきましては、公開といたします。

現状1名の方より傍聴の申し出がありましたので、これを許可したいと思います。傍聴にあたりましては、受付でお示ししました、府中市教育委員会傍聴規則等を遵守していただきますことをお願いいたします。

教育長 それでは、議事に入ります。

議案第19号 府中市教育委員会外国青年公舎管理規則の一部改正について を議題とします。提案説明をお願いします。大川課長。

大川課長　それでは、議案第19号　府中市教育委員会外国青年公舎管理規則の一部改正について　提案理由を説明いたします。

語学指導等を行う外国青年の幅広い人材確保のため、府中市教育委員会が契約した公舎の入居要件等を緩和することに伴い、所要の整備を行うためこの規則案を提案するものでございます。

現在の府中市教育委員会外国青年公舎管理規則では、外国青年招致により語学指導を行う外国人青年、つまりALTのみが入居可能の状況です。主な改正の理由としましては、今後、ALTが結婚等で、配偶者とその子と住む可能性が十分に考えられること、また、より経験豊富な人材を確保するために、配偶者等を帯同して来日することを可能とする必要があるためです。そういった理由から、参加者と配偶者、また、その子供が公舎に居住できるように改正するものであります。審議をお願いいたします。

教育長　　只今、事務局から提案説明がありました。ご質疑がありましたらお受けいたします。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

（はいの声）

教育長　　それでは、裁決をいたします。原案のとおり可決いたしたいと思いません。ご異議ございませんか。

（異議なしの声）

教育長　　異議なしと認めます。よって、本案を可決いたします。

それでは、議案第20号　令和6年度小学校及び義務教育学校前期課程で使用する教科用図書の採択について　教科書の準備をしますので、一旦休憩とします。

（教科書の準備）

教育長　　それでは再開します。

議案第20号　令和6年度小学校及び義務教育学校前期課程で使用する教科用図書の採択について　を議題とします。

門田教育部長、大川学校教育課長、大垣学校教育課主査、大森教育政策課長、津田主幹、和田教育推進係長の出席を求めます。

それでは、提案説明をお願いします。

大川課長　　議案第20号　令和6年度小学校及び義務教育学校前期課程で使用する教科用図書の採択について、教育委員会の採択を求めるものでございます。よろしくをお願いします。

教育長　　それでは、教科ごとに審議を行い、採択していきたいと思えます。選

定委員会の答申も踏まえてご意見をお願いします。

まずは、国語から審議を行いたいと思いますが、ご意見はいかがでしょうか。

藤井委員 どの教科書も目次のところに、単元名や目標が書かれていてわかりやすいと思うのですが、光村図書の目次を見ると、書く単元なのか、読む単元なのかがよりわかりやすくて、主体的に学ぶことができると思います。

教育長 光村図書は学ぶ観点がしっかりと示されているということですね。

藤井委員 はい。

和知委員 私も光村図書についてなのですが、学習の見通しや流れが見開きの2ページでわかりやすく丁寧に示されていると思います。こういう部分で、学習意欲を高めることができるのではないかと考えます。

藤井委員 今、和知委員が言われたところと同じところなのですが、見開きで「見通しをもとう」と投げかけてあり、「問いをもとう」と言う部分で、具体的に問いが示されています。問いをもつところから学習を始められるようになっていて、これも主体的に学習に取り組むということにつながりやすいのではないかと思います。

教育長 単元を貫く問いがしっかりと示されているというご意見でした。他にいかがでしょうか。

森山委員 どの教科書も子供たちの学習意欲を向上させるための仕掛けがしてあるなと思います。ただ、光村図書は、ちゃんと問いをもとうということや目標が示してあり、色分けもされていてわかりやすいと思います。また、過去にどのようなことを学んでいて、今回どういう風に学ぶのかということがわかりやすく表記してあるので、よいなと思いました。

教育長 既習の内容と関連した示し方がされているということでした。他にいかがでしょうか。

教育長 では、私から。国語の教科書に限らないのですが、今、文字を読むことが苦手な子供もいる中で、どの教科書も非常に工夫がなされていると思います。東京書籍では、写真やイラストをたくさん入れていますし、光村図書は紙自体の色合いを工夫されているし、全体的に文字をバランスよく配置しているような印象をもちますので、読みやすさについて工夫されているのかなと思いました。皆様のご意見を伺う中では、既習の内容と関連付けて示されていることであったり、単元を貫く問いが示されていたりするという光村図書の評価が高いのかなと受け止めております。高橋委員さん、何かご意見はありますか。

高橋委員 先ほどから委員さんが言われているように、光村図書の方が学ぶための整理と観点がわかりやすいと思いますね。文字がずっと目に入ってくるような工夫もあってよいと思いますので、光村図書を推薦したいと思います。

藤井委員 今、説明文のところを見ていたのですが、東京書籍の6年生「イースター島にはなぜ森林がないのか」という教材は、イースター島のもっている力が6年生の興味を引く、魅力的な教材だと思いました。とても工夫されていると思ったのですが、説明文を読む力を付けるということになると、筆者がどのように論を展開しているのかということを読む力が子供に身に付かなければいけないと思うのです。どの教科書においても工夫はありますが、光村図書は、メインの説明文の前に、短い説明文で読み取り方を学ぶという構成になっています。文の構造を学ぶためには非常に有効なのではないかと思いました。

教育長 他にご意見はありますか。  
(なし)

教育長 それでは、採択を行います。国語については、光村図書を採択することによってよろしいでしょうか。  
(異議なしの声)

教育長 それでは、国語については、光村図書を採択いたします。続いて、書写に移ります。ご意見いかがでしょうか。

教育長 では、私の方から。書写の授業では、基本的な止めやはねをしっかりと教えられてきた記憶があるのですが、そういった意味では、基本的なことをしっかりと指導できる教科書がよいのではないかと思います。そういう点で言うと、どの教科書もしっかりと丁寧に示されていると思います。一つ特徴的なところを挙げるなら、光村図書は、他教科での汎用や日常生活での活用といった部分までの展開が示されているところがあると思いました。

藤井委員 どの教科書会社も他教科との関連がとても意識されていて、書写の時間に身に付けたことが他教科へも汎用されていくということが非常に素晴らしいと思いました。その中で、光村図書は、他教科と日常生活への汎用がすごく意識されていて、事例を挙げながらわかりやすく示されています。実際の学校生活において、書写で身に付けた力が生かせる場面が子供にもわかりやすい「書写ブック」が付いていて良いと思いました。

教育長 子供の視点から見ても、日常生活への汎用性があるのではないかと

う意見をいただきました。

和知委員 藤井委員さんも言われたのですが、光村図書には「書写ブック」が付いています。いろいろな横書きの方法や原稿用紙の使い方、はがきの宛名の書き方などがわかりやすく書いてあって、私が見てもほしいなと思いました。

教育長 今ご意見をいただいたのが、光村図書の「書写ブック」についてですが、1年生から6年生までに学んだことを日常生活に広げるところに特徴的な工夫があるのではないかと、また、評価できるのではないかとのご意見だったように思います。その他、いかがでしょうか。

では、私からもう一点。視覚的にですが、光村図書の「たいせつ」が効果的に使われていると思いました。情報量も多すぎず、大切な観点が見やすく、子供たちにとっても学ぶ上で効果的なのではないかと思いました。

教育長 それでは、採択を行います。書写については、皆様のご意見を伺った上で、光村図書を採択するというところでよろしいでしょうか。

(はいの声)

教育長 それでは、書写については、光村図書を採択いたします。続いて、社会に移ります。ご意見いかがでしょうか。

森山委員 歴史に興味をもたせることについて、どの教科書も工夫されているなと思ったのですが、日本文教出版のQRコードを読み取ってみると、すごくわかりやすかったです。例えばイラストの「建物」をクリックすると、建物だけに色が付くとか、ただ説明があるだけでなく、グーグルドキュメントのデータが出てきて、自分で書き込んで編集ができるというものもありました。これは、ものすごく画期的だと感じました。

教育長 今、一人一台端末を配付している中で、QRコードの先の部分の工夫も非常によくされているという、日本文教出版についてのご意見でした。

藤井委員 選定委員会の答申にもありましたが、同じ時代のページを比べてみるということで、室町時代の文化のあたりを比べてみると、どの教科書も「室町時代にはどのような文化が生まれたのだろうか」という問いを基に追究していくという流れになっています。どの教科書も金閣と銀閣が出てきますが、日本文教出版は、金閣と銀閣を比べて、そこから課題解決に入っていくという流れになっているので、子供も興味をもって追究していきやすい、主体的に深めていきやすいつくりになっていると思いました。

教育長 今のご意見と関連してですが、日本文教出版は金閣と銀閣を比べると

ということで、レイアウトも対照的になっています。視覚的にも深く追究しやすい構成になっているのかなと思います。他の教科書会社も同じような資料が示されていて、文字もしっかり書かれています。それぞれを深く追っていくという観点を重視するのであれば、こういうレイアウトが工夫されているものも評価できるのではないかと思います。もう一点、例えば東京書籍はページの下に「学びのポイント」として学習する流れや考え方が得られるように意識してつくられているのかなと思います。日本文教出版は、「問題を発見する力を身に付けよう」といった、探究の場面を示されているというところでいくと、他の教科書にはなされていない工夫があるのかなと思います。

高橋委員 どの教科書にも、1年間の学習を振り返るようなページがあるのですが、日本文教出版は、これに加えて、自分にはどのような力が身に付いたのかということを探掘りするような項目がありますし、その先には中学校に向けて、こういうことを学んでいくんだよという項目もあります。小学校で終わりではなくて、中学校でも社会は続くんだという学ぶ姿勢が見えてくるのではないかと思います。

教育長 系統性を意識しているという面でも、日本文教出版は特徴的であると思います。

藤井委員 先ほどの金閣、銀閣のところのことなのですが、その部分だけのことでなく、そこを見ることによって、他の部分もそういったスタンスで教科書づくりがされているのだろうと思います。日本文教出版は、金閣と銀閣を対比的にならべて、人物にも焦点が当たるように配列し、それぞれの建物の特徴も図式化してわかりやすくし、さらに、室町時代の文化は現代に残っているものがたくさんあるので、現代の和室とも比較できるようになっています。どの教科書会社も工夫されていますが、中でも日本文教出版はわかりやすく対比されていますし、文化の背景にある世の中の動きについても文化と関連付けて書かれていて、6年生なりに政治と結び付けて考えることができるようになっています。その時代の背景を自然と学べるようになっていて、そういったことが中学校で学ぶ歴史につながるのではないかなと、そこが優れているのではないかと思います。

教育長 それでは、採択を行います。社会については、皆様のご意見を伺う上で、日本文教出版を採択するというところでよろしいでしょうか。

(はいの声)

教育長 それでは、社会については、日本文教出版を採択いたします。続いて、

地図に移ります。地図については2社の中から1つを採択します。ご意見いかがでしょうか。

森山委員 地図帳は一番好きで、子供の頃、一番見ていました。地図帳をどんなふうに見ていたかなと考えたときに、まず、自分が住んでいるところがどこなのかを確認できることが大事なことだと思っていて、府中市も地図帳に載っていますが、帝国書院では43ページと44ページのところに示されています。家具が名産としてきちんと出ていて、隣の新市は備後餅が出ています。自分のまちがフューチャーされているとうれしい気持ちになります。また、地図を見ることで、自分たちの住んでいるところはどんな産業があるのか、どんな地形なのか、日本とはどんな国なのかなど、すごくいろんなことを知ることができるものだと思います。そういった意味では、帝国書院は地形が立体的でわかりやすいと思います。東京書籍は、海外にはどのような料理があるのか、どんな文化があるのかが付け加えられていて、これを見て興味をもたせるような工夫がされており、甲乙付けがたいと思いました。

和知委員 私も地図の色というか立体的という面では、帝国書院が優れていると思いました。東京書籍は、自然災害の記載が細かに詳しく書いてあります。今、日本でもたくさん災害が起きていて子供たちも興味があると思います。そして、自分たちが、今後どのような災害に遭う可能性があるのかということを知るといえる意味では、こういう資料があるのはよいのではないかと思います。

藤井委員 地図は3年生から6年生という長い期間使います。特に3年生にとっては、地図の使い方は難しいものだと思いますが、そういう意味では、帝国書院の地図についての約束事や見方の説明がわかりやすいです。3年生にとってもわかりやすいと思います。全体のページ数も帝国書院が多く、広く全体を見渡す地図の次に、地方ごとの詳しい地図が記載されるという流れは、3年生でも見やすいと思います。また、同じようなページを比べてみると、色合いが違っていて、私としては土地の高低差、市街地などがわかりやすい帝国書院がよいなど。東京書籍は情報量が多すぎるかなと思いました。巻末の資料では、東京書籍の方が魅力的な資料が多いと思うのですが、総合すると帝国書院の地図帳の方が、3年生から6年生という幅広い学年で使用するにはよいのではないかと思います。

教育長 では、私の方から。東京書籍が見やすいと思いました。私もよく家でも地図帳を見るというタイプでしたが、この地図帳をこれから4年間、

子供たちが学校でも家庭でも使うといったときに、東京書籍の「ポップ・ステップ・マップでジャンプ」は、家庭の中でも家族とディスカッションしながらクイズ形式で学べるようになっていたり、統計情報の部分では、東京書籍がしっかりと書かれていたりするという印象をもちました。また、近年自然災害が多い中で、その自然災害のバリエーションは、学ぶ観点として重要性が高まってきているのかなと思います。そこが東京書籍の方がより充実していると感じます。4年間使うということで、紙質も大事な観点かなと思いました。高橋委員さんはいかがですか。

高橋委員 日本地図を比較して見させていただきましたが、東京書籍は地図の色がわりと濃いですね。そういったところでは、帝国書院の方が、わりと目に入りやすいのかなという印象を受けました。

和知委員 地図として見れば帝国書院ですが、情報としては東京書籍なので難しいですね。でも地図帳ですので、地図の方が主であるのならば帝国書院かなと思います。

教育長 地図の見方の部分で帝国書院の方が児童にわかりやすいということですね。

和知委員 はい。わかりやすいです。

教育長 それでは、採択を行います。地図については、皆様のご意見を踏まえた上で、帝国書院を採択するというところでよろしいでしょうか。

(はいの声)

教育長 それでは、地図については、帝国書院を採択いたします。

ここで休憩を取ります。

(休憩)

教育長 では、再開します。続いて、算数の教科書について審議を行います。ご意見いかがでしょうか。

教育長 まず私の方から。算数における今の児童の現状を振り返ると、算数の基礎的な力を付けることはもちろん大事なのですが、問題文をきちんと読み取れていない、文章題の読解に課題があるということが府中市に限らず、日本全体に言えるのではないかなと思っています。その中で特徴的だったのが大日本図書の88ページ左上にある「読み取る力をのぼそう」という部分です。文章題を読み取る力を大事にしていこうと示してあります。144ページも特徴的です。文章題で何を聞かれているのか、どういう部分を重視していくのかなど、文章題の国語的な部分が重要だと考えていて、そういったことが丁寧に記載されている教科書が重要な

のではないかと感じたところです。

藤井委員 学校図書の教科書の最初に「考え方モンスター」が載っていて、算数ではこの中からどれかの考え方を使って問題を解けばよいとなっています。思考力を伸ばすためにはこういうことが大事だなと思います。今6年生の教科書を見ていますが、5年生までにこういう見方・考え方を身に付けてきましたねということも載っていて、こういうのがすごくいいと思いました。また、子供が一人で見ても学べるだろうかと考えて、分数のわり算の単元を見比べてみました。分数でわるというなかなか考えにくい単元だと思うのですが、自分で見てわかるかなという視点で見ると、日本文教出版が既習の計算方法を基に演算決定をするようになっていて、他社にはないよさだと思いました。一人で学べるということは、主体的な学びというところにも通じるものがあるのではないかと思います。学校図書の「考え方モンスター」も魅力的でしたが、私は日本文教出版の説明の仕方がよいなと思いました。

森山委員 円の面積の求め方で比べて見たのですが、各社同じように円を細かく切って求めるという内容になっています。違いを見るためにQRコードを読み込んでみると、各社動画で円の面積の求め方が説明されていて素晴らしいです。その中でも、学校図書は細かく説明するだけでなく、〇〇さんの考え方として2人の考え方が紹介されているので、考え方が柔軟になっていくのかなと思いました。もう一つ、日本文教出版は、円の面積をひもで考えていて、こんなこと思い付きもしませんでした。QRコードを読み取ると、その考え方も納得できるもので、新しい考え方が示されていました。各社、円の面積を求めるという目的は同じですが、そこへたどり着く道のりがいろいろあっておもしろいと思いました。

教育長 どれも甲乙付けがたいという意見が多いので、もう少し深めたいと思います。特徴的ということで言えば、大日本図書は中学校に関連する内容が教科書の中に収録してあり、学校図書は別冊となっています。日本文教出版は「もっとジャンプ」というところで日常生活との関連も工夫された内容となっています。

和知委員 大日本図書は252ページにある「中学校の数学ではこんなことを学ぼうよ」のように、中学生での学びをイメージしやすいようなページが設けられていて、中学生になった時の見通しがもてるようにしてあるというところが印象に残りました。

藤井委員 先ほど、学校図書の「考え方モンスター」がよいと言いましたが、日本文教出版にも同じようなところがあります。ただ問題のやり方がわか

って解ければよいということではなく、どういう考え方をすればよいかを身に付けることをどちらの教科書もすごく意識されていると思いました。どちらの教科書も良いと思います。

高橋委員　大日本図書は1年生の教科書が別冊のものがあり、初めて算数を学ぶ1年生にとってわかりやすく、好きになるのではないかと思います。中学年、高学年につながっていくような学び方を提示してあるのではないかと思います。6年生の教科書も中学校につながるような内容になっておりますのでよいと思いました。

教育長　ご意見が出尽くしたということでよろしいでしょうか。  
(はいの声)

教育長　ご意見を伺う中で、算数は大日本図書、学校図書、日本文教出版の3社についてご意見がありましたので、この3社の中から採択するということがよろしいでしょうか。  
(はいの声)

教育長　では、3社の中から挙手をお願いします。  
(大日本図書に3名の挙手)

教育長　大日本図書に3名の挙手がありましたので、算数については、大日本図書を採択いたします。続いて理科に移ります。ご意見はいかがでしょう。

教育長　では、私から。子供たちが理科を学ぶ上で大切だと思うことは、探究のプロセスを学ぶことであり、そこに着目しております。どの会社も学習指導要領に示されている探究のプロセスをたどっていますが、特に東京書籍は、問題発見から仮説を立てて観察・実験をし、そして考察しまとめるというプロセスがどの単元でも矢印を使いながら繰り返し訓練していくということが非常によく見えるということと、観察・実験の写真やイラストが大きく見やすいということで、高く評価しました。皆さんはいかがでしょう。

藤井委員　選定委員会の答申でもありましたが、「大地のつくり」の単元の写真が鮮明でインパクトがあります。さらに、「自分の立っている地面の下はどうなっているのかな」といった問いかけが提示してあって、自分の身近な事象として捉えられるような構成になっていて良いと思います。写真については各社すばらしいですが、「大地のつくり」でいくと東京書籍のインパクトがありました。また、学習の流れがわかりやすく配置してあります。どの教科書もそういったことが書いてあるので悩みますが、私としては、東京書籍の学習の流れの示し方や疑問から始まる設定が子供

の主体性、問題を解決しようという意欲を引き出すのではないかと思います。

高橋委員 先ほど教育長からもあったように、東京書籍がわかりやすいのですが、大日本図書も同じように問題を提起して問題を解決していくという流れになっています。ただ、東京書籍の方が写真とイラストと文字のバランスが非常によくて、わかりやすい、見やすいような気がします。ですから何を訴えたいか、何を考察してほしいかということがよりわかりやすくなっていると思いますので、東京書籍を推薦したいと思います。

和知委員 SDG sについてはどの教科書も取り上げていますが、東京書籍の「地球に生きる」というところで、人と環境の関わりということについて、問題提起されています。自分たちにできることなどを勉強する上で、上手にまとめてあるなと感じました。他の教科書もSDG sの観点を取り上げていますが、一番見やすいような気がします。

森山委員 理科は、なぜ空気があるのかとか、なぜ魚は水の中で生きられるのか、なぜ車は走るのかなど、普段生活していても考えなかったようなことを追究していく教科書だと思うのです。ですので、教科書をぱっと見たときに写真やイラストで目を引くというか興味をもてる教科書がよいと思いました。その中では東京書籍と大日本図書の教科書は写真やイラストを上手に使っていて、そこから興味をもって追究していけるのかなと思いました。東京書籍は「つながりを見つけよう」ということで、普段の生活場面のイラストがあって、「この水はどこからやってきたのだろう」と疑問から始まっています。大日本図書は、「どちらが水でどちらが食塩水でしょうか」といったように、いきなり問題から入ります。両方ともおもしろいですが、私は大日本図書のようにいきなり問題から始まる感じがおもしろいと思いました。まず考えさせるというのがよいです。ただ、内容的にこの2社がわかりやすのではないかなと思いました。

教育長 今挙げられた2社のコラムでいくと、どちらも充実はしていますが、大日本図書のコラムはより充実といいますか、子供たちの興味を引くものが多いのかなという印象を受けました。また、写真のインパクトという面でもこの2社は鮮明でよいなという印象がありました。

森山委員 SDG sの観点が先ほども挙がっていましたが、特に理科は環境とつながっている内容が多いと思います。SDG sについてはいろいろな項目がありますが、環境に配慮していかなければならないと思います。コラムの部分にSDG sについて書かれていれば、このままではいけないよねという問題意識をもつこともできると思いますので、コラムにSD

G s のことが書かれている大日本図書がよいだろうと思いました。

教育長 　ただいま議論いただいた中では、東京書籍と大日本図書の中から決定していくということによろしいでしょうか。

（はいの声）

教育長 　では、どちらかに挙手をお願いします。

（東京書籍に4名の挙手）

教育長 　では、理科については東京書籍を採択いたします。続いて生活に移ります。ご意見をお願いします。

教育長 　生活科は1・2年生が使用し、3年生からの社会科・理科につながる教科であります。ですので、そこにつながる動機付けになるようなもの、それが充実したものという観点から読ませていただいたところです。子供たちの意欲を喚起するような教科用図書が適切なのではないかなと思っております。

和知委員 　どの教科書も写真が多く、子供が興味をもてるようにつくられているのですが、その中でも、私が一番楽しいと感じたのが教育出版の教科書です。2ページ目に「保護者のみなさまへ」という項目があって、その中に「六つの力をひき出すことを大切にしています」というメッセージとともに六つの力が記載されています。これは「保護者の方と一緒に考えていきましょうね」というメッセージで、保護者に対しても六つの力を引き出すことの大切さに気付かせるような構成になっているのだらうと思います。また、各ページに六つの力が示されていますし、単元の終わりには「ぐんぐんはしご」があって、振り返りが簡単にできるような工夫がされていますので、保護者の方もこの教科書と一緒に学んでいけるのではないかと感じました。その点で、教育出版が一番楽しく学べるのではないかと思いました。

教育長 　「保護者の皆様へ」という記載は他社にもありますが、資質・能力という部分、六つの力というところまでも整理して伝えている、生活科の学習目標について明記しているという部分が評価できるというご意見だったのではないのでしょうか。他にいかがでしょうか。

教育長 　各社いろいろ工夫されている中で、見た目の部分で特に印象的だったのは東京書籍です。全体の構成の見やすさがありました。光村図書はイラストが素晴らしいなど。子供たちへの意識付けとして、興味・関心を高めるようなイラストがふんだんに使われていることが特徴的だなど思いました。また、教育出版は、「わくわくすいっち」という学びの視点が明記されていることは評価できる点として挙げたいと思います。

藤井委員 東京書籍の写真やカットの配列がすっきりしていていいですね。例えば生き物の單元には「いきものずかん」があるだとか、情報がコンパクトにごちゃごちゃせずに載っているなどと思います。理科的な要素の時にはそれがとても感じられます。教育出版も草花遊びであればその遊びがいくつか並べられてわかりやすく記載されていますが、比べると東京書籍の方がわかりやすいと思います。その一方、教育出版は「はっけんろ一ど」で学びの連続性が示されていて、体験が多い教科だけれども、学びがしっかりとつながっていくんだよということがわかりやすいです。光村図書は、ヨシタケシンスケさんのイラストがすばらしいです。絵本からも、子供がもっている素朴な疑問だったり、自由な発想をおおらかに受け止めて、みんな自分らしくていいんだよというスタンスの方だという印象をもっていますが、教科書でも子供の素朴な疑問をイラスト化してあって、楽しいなど思いました。この学習が理科や社会につながっていくと考えると「いきものずかん」などがある東京書籍がよいかなど思っています。

森山委員 東京書籍は割と疑問形で投げかけがされています。1・2年生は、主体的に学ぶということが難しいかもしれないと考えると、先生にとって、このように疑問がたくさん投げかけてあると子供たちに考えさせたり、答えさせたりと授業がしやすいのかなと思います。

和知委員 光村図書の巻末に、切り離せるシートが付いています。これを持って校庭などで生き物を探すのに使うのかなと思います。今3社について意見が出ていて、どれも甲乙付けがたいですね。

教育長 先ほど藤井委員がおっしゃった、「はっけんろ一ど」ですが、授業を構成する上でも、子供たちが振り返る上でも系統性というものをかなり意識された構成でつくられているのだろうなという印象を受けました。

高橋委員 教育出版の教科書は左上に六つの力を備えるためのキーワードが書かれていますし、テーマごとに問題提起から解決までの流れがわかるようになっているなど思いました。東京書籍は1年生ならではの興味をそそるような内容になっていて、親しみがもてると感じました。

藤井委員 先ほど、和知委員が言われたように、光村図書にも優れた図鑑があります。高橋委員が言われたように教育出版は付けたい力が書いてあって、「はっけんろ一ど」をたどっていくと「ぐんぐんはしご」が伸びていくという構成はよいなど感じました。また、子供が観察記録を書いたり感じたことを書いたりした部分がふんだんに使われています。生活科は外に出て体験したり観察したりということが多いのですが、子供が書いた

ものが示されていることで、何を学ばせたらいいのか、何を学んだらいいのかということについて見通しがもてるのかなと思います。

教育長       では、採択に移りますが、ご意見を伺うと、3社についてのご意見がありました。この3社の中から採択するというので挙手をいただきたいと思います。

                  (教育出版に3名の挙手)

教育長       それでは、生活は教育出版を採択したいと思います。

ここで休憩を取ります。

                  (休憩)

教育長       再開します。続いて音楽に移ります。ご意見をお願いします。

教育長       では、私から。2つの出版社とも多くの楽曲が入っているなという印象を受けました。教育出版は、演奏する際の楽譜が充実しているというところで違いが出ていると思います。私は、教育出版の教科用図書をより評価したいと思います。

和知委員     違うところを比較してみました。教育出版はQRコードを読み取ると、演奏とともに映像があり、楽譜に色が付くようになっています。どちらも「ふじ山」の歌が掲載されていますが、写真のインパクトとしては、教育出版の方があるかなという感じを受けました。

藤井委員     鑑賞曲のところで比較しましたが、どちらもQRコードが付いていて、動画等が見られるようになっているのだらうと思います。どちらにも工夫がありますが、教育出版は「音楽のもと」として、旋律や音色、反復、変化など音楽を構成している要素について記載されているので、それを意識して鑑賞できますし、鑑賞後にそれを視点として考えやすいのではないかなと感じました。

教育長       私からもう一点述べさせていただきます。音楽の授業の中で、技術指導を行うにあたり、教育芸術社は、リコーダーの技術指導が丁寧にされていると感じます。技術に関するページ数も多く、丁寧に説明されているという点では評価できると思います。

森山委員     教育芸術社は、リズムに重点を置いているのかなという印象を受けました。最初に出てくる曲が、まずリズムで活動するように構成されていて、子供にとって馴染みやすいのかなと思いました。リコーダーについても、タンギング等、音程ではなくリズムに関することを重視して取り上げているという特徴があるなと思いました。「ミッキーマウスマーチ」は両社に出てきますが、教育出版はパートが多く示されていて、教育芸

術社は演奏順序がわかりやすく示されています。合奏をするという意味ではやりやすいのかなど。両社とも特徴があるなと思います。

高橋委員 甲乙付けがたいですね。教育芸術社は、リコーダーに特化していて、教育出版はいろいろな楽器でいろいろな音色を奏でられるように構成されているように感じます。

藤井委員 最初にも言いましたが、それぞれのよさがありますね。教育芸術社は、やはりリコーダーの技術指導について丁寧に記載されています。教育出版は鑑賞の際、QRコードから演奏の様子がつかみやすいですし、「ふじ山」のところでは、視覚的にもイメージができるように写真が工夫されていると思います。そして、やはり、「音楽のもと」があることで、学ぶ方も指導する方も使いやすい教科書であるのかなと思います。

教育長 では、意見が出尽くしたようですので、採択を行いたいと思います。皆さんの意見を伺うにあたり、教育出版の教科書を採択するということがよろしいでしょうか。

(はいの声)

教育長 それでは、音楽については教育出版を採択いたします。続いて図画工作の採択に移ります。ご意見をお願いします。

森山委員 気になった点ですが、日本文教出版は、この教科書を作成する時期によるものと思われませんが、写真に写っている子供たちがマスクを付けています。今後、この教科書を使っていくことになった場合、少し違和感があるのかなど。一方、開隆堂にはマスク姿の写真はありません。

藤井委員 目次の部分ですが、開隆堂は、キャラクターによって単元の目標が示されていて、日本文教出版は、鑑賞なら「鑑」と文字で表されています。どちらもいいのですが、日本文教出版の方がわかりやすいと思います。また、造形と鑑賞の単元がありますが、どのような視点で子供たちが鑑賞をすればよいのかが吹き出し等からわかりやすいです。造形をこういう観点で見るとよいという道標になるとと思います。この部分は日本文教出版の教科書がよいと思いました。

教育長 児童の吹き出しが非常にわかりやすく表現されているということですね。

藤井委員 はい。そうです。

教育長 これはよいなというところがありました。日本文教出版では教科書の下の部分に使用する道具が丁寧にかかれているところ。開隆堂はそれが左上にかいてあります。何を題材にしてどのように活動していくのかということについては、どちらも工夫して示されているように思いますが、

日本文教出版の方が、単元で行っていく活動とねらいがすごくリンクして書かれているので評価したいと思います。一方で、学習のめあてについては、児童目線で考えると、開隆堂の方がわかりやすいと感じ、すばらしいと思いました。

高橋委員 子供たちの創造力をかき立てるといえることと言えば、日本文教出版が非常に有効な内容になっていると思います。開隆堂は「ふりかえり」や「あわせて学ぼう」のところが有効なのかなとも思います。先ほど森山委員さんが言われたマスクのことはそれほど気にする必要がありますかね。今後4年この教科書を使いますが、4年後に見たらどう感じますかね。

藤井委員 マスクを付けていない写真もありますよね。6年生の針金で造形する単元を例に挙げますが、開隆堂は下のところに土台の作り方や技法が丁寧に説明されています。つくるときのヒントとしては子供にもよくわかるので、すごくいいと思います。もちろん、日本文教出版にも同じような内容がありますが、別ページになっています。ただ、別ページですが詳しく載っています。甲乙付けがたいですが、私は、日本文教出版には児童の吹き出しが載っていて、どんどん発想が膨らみますし、「こうすればおもしろいな」とか、「そういう見方もあるんだな」など、いろいろな考えにつながりますので、有効なのではないかなと思います。指導する場面と鑑賞の場面の両方から見ても、吹き出しがある方がよいと思います。

教育長 両社の違いとして、日本文教出版は、児童同士のディスカッションと言いますか、議論できるような観点が明確に示されているのかなと思いました。そういう場面の写真も掲載されていて、話し合い活動の中でよりよいものへとつなげていくという面が顕著に出ていると思いました。

教育長 それでは、採択の決を採らせていただいてもよろしいでしょうか。

(はいの声)

教育長 それでは、適切だと思われる教科書に挙手をお願いします。

(日本文教出版に4名の挙手)

教育長 それでは、図画工作は、日本文教出版を採択いたします。続いて家庭の採択に移ります。ご意見をお願いします。

教育長 では、私から。家庭科は将来生きていく上で役立つことを学ぶ教科だと思いますので、より実践的で、子供たちが何をするのかという手順等がわかりやすい教科書が適切ではないかと考えています。そういった中で、見やすさで言うと東京書籍の方がわかりやすいと思ったのですが、

手順の示し方という面では開隆堂は丁寧であると感じました。

藤井委員 今、教育長が言われたように、家庭科は生活と直結している教科なので、生活に生かせるようになることが大事だと思います。開隆堂は6ページや37ページにあるように、学んだことを生活の中に生かすということを一貫して示しているところがよいなと思いました。もちろん東京書籍にも同様の記載はありますが、開隆堂の方がより具体的で実践的と感じます。

教育長 他にご意見はありませんか。ご意見をいただく中では、開隆堂を採択するというだけでいきたいと思いますがよろしいですか。

(はいの声)

教育長 では、家庭については開隆堂を採択いたします。続いて保健の審議に入ります。ご意見をお願いします。

教育長 私から意見を述べます。保健は、科学的な知識や正しい知識が端的に示されていることや他教科でも言えることですが、子供たちの興味・関心を引くためにも文字とイラスト、写真のバランスが大切だと思います。そして、子供たちが自分の健康について考えられる、自分で気付けるようになっているかという観点で見させていただきました。皆様にもそういった観点でもご意見を出していただければと思います。例えば、学習に主体的に取り組むという観点で、この教科書が効果的である等の意見はございますでしょうか。

藤井委員 東京書籍や光文書院の教科書を見てみると、交通事故の防止という学習があります。大きく言うと「けがの防止」という単元ですが、どちらも最初に学習課題が設定され、それを調べたり、考えたり話し合ったりして解決していくという道筋が示されています。課題解決的な学習につながるためよいと思いました。東京書籍は、資料の提示の仕方がよいと思います。交通事故の原因について、歩いているときや自転車に乗っているときに分けてグラフが示され、それを基にどうすればよいかということを見事に考えさせる流れになっています。児童が考えやすい構成になっています。光文書院にもそういう資料がありますが、学習した後に提示されています。東京書籍のように課題設定の場面に提示される方が主体的に学べるのではないかなと思いました。

教育長 私は特に2社が適切かなと思いました。まずは学研ですが、5・6年生の教科書の5ページにあるように、問題の解決の段階が3つ示され、全ての学習において、この3つの活動が重視されています。次に、東京書籍ですが、5・6年の教科書の3ページにあるように、4つのステッ

プをたどって学びを進めるようになっていきます。子供たちにとっても指導する教師にとっても学習の流れが明確になっているということが適切な教科書なのではないかという印象をもちました。

和知委員 教科書の使い方のページを比べると、光文書院と学研は1時間で学んだことを活用するという流れになっていますが、東京書籍は、「まとめ・生かす」となっていて、ちょっと深く入り込んだ内容となっているように感じます。さらに、東京書籍のページのレイアウトが見やすいと感じました。ページの下の「まめちしき」や資料の紹介ページへの案内もわかりやすいと思いました。

教育長 今おっしゃっていただいた観点で言うと、学研や光文書院よりも東京書籍の方が、「生かす」というところが充実しているということですね。

和知委員 はい。普段の生活にどう生かしたらよいかという点で比較して見ると、すごく細やかに書いてあるように感じました。

教育長 東京書籍の「心の健康」を見ると、「つなげよう」で他教科との関連も書かれていて、教科横断的に学ぶという視点をもたれているという印象を受けました。

藤井委員 選定委員会の答申に、「東京書籍の単元の導入には児童にとって身近な内容が扱われていて、自分事として考えやすい」とあります。実際、「心の健康」の単元でも、単元の初めや毎時間の最初に写真や3コマ漫画などで、身近な場面が示されていて、自分事として課題を考えられるようになっていてよいと思います。

教育長 では、採択に移りたいと思いますが、ご意見のあった3社の中から採択したいと思います。適切だと思われるものに挙手をお願いします。

(東京書籍に5名の挙手)

教育長 保健につきましては、東京書籍を採択いたします。ここで、休憩を取ります。

(休憩)

教育長 再開します。続いて英語に移ります。ご意見をお願いします。

教育長 では、私から。府中市の大きな目標として英語についての興味・関心を高めるということがあります。ですので、教科書も親しみやすさ、取り組みやすさということも大事だと思っています。また、読む、書く、聞く・話すという基本的な技能を身に付けるという意味でも、教科書にどんどん書き込んでいけるスペースが十分にあるものが望ましいと思いつながりながら見させていただきました。指導のしやすさや親しみやすさとい

った面から皆様にご意見をいただければと思いますがいかがでしょうか。

藤井委員 光村図書ですが、選定委員会の答申にも「学習内容がはっきりと記載されていて、児童にも教師にも活動がわかりやすい」とあります。実際に見てみても、何をやるのかがわかりやすいので、興味・関心があまりない子にとっても有効だと思います。東京書籍についてですが、単元ごとに振り返りができるので、そのあたりは充実していると思います。6年生のUnit 1の最後には「文字の音に慣れ親しもう」という書き込めるページもあって、知識を習得しやすくなっていると思います。

和知委員 光村図書は最初に「いつもたいせつ」というページがあって、コミュニケーションを大切にされているのかなという印象です。また、選定委員会の答申にも「学習内容がはっきりと記載されていて、児童にも教師にも活動がわかりやすい」となっていますので、こちらの教科書がよいのではないかなと感じました。

森山委員 単純に英語を学ぶだけでなく、外国の文化について興味をもたせるといふ仕掛けがあるなど思いながら見させていただきました。その中でもおもしろいなと思ったのは、光村図書です。光村図書は、最初に自国のことを紹介するという構成になっています。他国のことを知る前に、自国のことを知る必要があるとよく言われますが、英語を通じて、今住んでいるところについて確認するという構成がおもしろいと思いました。

教育長 小学校の段階から英語を話すのが楽しい、間違えることを恐れないうったことを大事にしたいです。小学校で英語が嫌いだった児童が、中学校で好きになるということはなかなか難しいと思います。ですので、活動が活発になるような教科書が適切なのだらうと思います。

高橋委員 光村図書と三省堂は、英語に親しみやすいようにクイズ形式や教師と児童のやり取りができる場面が多くなっていると思います。東京書籍の空白の部分は全部英語で書くのでしょうか。

教育長 一部はそうですね。

高橋委員 そうなると、小学生の段階でここまで多くの内容について英語で書けるのかなという疑問があります。私としては、光村図書が、児童と教師がしっかりとコミュニケーションを取れるようになっていますので、よいと思います。

和知委員 三省堂の「地域の紹介をしよう」という単元もよいなと思いました。自分の地域の観光スポットや祭りをどのように伝えたらよいかということを知っていたら、聞かれてもすぐに答えられるので、喜ばれるし、

自分もうれしくなるのではないかなと思いました。

教育長 日常生活にも生かしていけるということですね。先ほど高橋委員さんから質問があった件について事務局に質問ですが、東京書籍の空白の部分は日本語で書く部分と英語で書く部分があると思いますが、どちらで書くのか印があるでしょうか。

大垣主査 基本的に英語で書く部分については、4本の罫線が引かれています。それ以外の部分は日本語で書くようになっております。

藤井委員 最初、教育長から府中市の子供が英語に対して興味・関心が低いというお話がありましたが、どの程度なのでしょう。

教育長 全国的な傾向として、小学生は割と高い数値となりますが、府中市は小学生の段階から低いという傾向がみられます。要因はいろいろあると思いますが、英語を使う活動の必要性を児童が感じにくいこと、外国の方と触れ合う機会が少ないということなどが挙げられると思っています。ただ、外国語自体の必要性については児童生徒も感じていますので、外国語をさらに親しみやすいものへと変えていくという観点からもALTを増やしている状況です。そういった意味でも、話す活動というのは重要視していくという方向性をもっています。

藤井委員 興味・関心というのと苦手意識というのは若干違いますよね。

津田主幹 5・6年生も「外国語活動」だった頃は、府中市もアンケート調査の数値としては高かったと思います。個人的には、「書く」等内容が変化し、難しくなったことによって、苦手意識を感じる児童も増えてきているのではないかと感じております。

大川課長 これまでは「慣れ親しむ」が目標でしたが、5・6年生の教科化によって内容が難しくなったことは、子供にとっても影響があったのではないかと考えています。

藤井委員 本格的に英語を学ぶのは中学生からですね。

教育長 そうとも言えなくなってきましたね。もちろん文法等は中学校から本格的に入ってからですが、小学3年生から外国語活動が始まります。

藤井委員 小学校の英語では、まず好きになってもらう、コミュニケーションを図りたいと思ってもらうことが大事だと思います。ALTが各校に配置されることによって、「話してみたい」「もっと知りたい」という気持ちにさせることには効果があると思いますが、思うように話せないというときに、教科書で学んで少しでも会話の助けになればよいなと思います。そういう視点で見たときにどの教科書なら「会話してみよう」とか「少しできた」と思えるようになるのかと考えて先ほどから教科書を見てい

ます。東京書籍は割と高度というか、書くところが多く、表現も複雑なものが多いと感じます。そうすると、活動することがよくわかる光村図書の教科書が子供に即しているような気もします。しかし、中学校の英語を垣間見ると、高度なことをしているなど思うので、中学校につながるためにはできることを増やすことも必要だとも思うので悩んでいます。

教育長 今の子供たちの現状に即して選ぶということも大切ですし、4年間使用しますので、何を指すのかという視点をもつ必要もあると思っています。

森山委員 中学校で本格的に英語を学ぶ前に、英語というものを自分にとって身近なものにするための教科書だと思います。教科書が違えばそれが変わるのかと言われればそうでもないような気がします。先ほども言いましたが、どれだけ異文化に興味をもつかが一つの大事な要素なのではないかなと思っています。

教育長 お話を伺って、外国語に興味をもてないという原因には様々あると思いますが、わからないから嫌いになるということがあると思います。逆に言えば、わかるから好き、できるから好きということもあると思います。やはり、子供たちに力を付けていかないといけないと思います。教科書を使って学んでいく子供たちに力を付けるということを担保しなければならないと思います。6社とも検定に合格していますので、基準はクリアしていますが、その中でより適切なものを選んでいただきたいと考えています。

教育長 今、3社についてご意見をいただきましたので、3社の中から採択したいと思いますがよろしいでしょうか。

(はいの声)

教育長 適切だと思う教科書に挙手をお願いします。

(光村図書に4名の挙手)

教育長 では、英語は光村図書を採択いたします。最後に道德の審議に移ります。ご意見ををお願いします。

教育長 子供たちが自分のこととして道德的な価値について考えることができる教材が適切でありますので、心に響くもの、身近なもの、感動的な教材やコンテンツが選ばれていくべきなのかなと考えております。また、議論する道德とよく言われますので、問題解決的な学習の展開ができるような教材がよりよいものとして薦められるのではないかなと思いますので、そういった観点でもご意見ををお願いします。

和知委員　　この中では、光村図書と日本文教出版を評価します。違いとしては、評価をするためのノートが付いているかどうかということがあります。そこに授業で考えたことや振り返りを書くことで、先生も児童の考えを把握することができるので、大変役に立つのではないかなという気がします。

藤井委員　　質問ですが、別冊でノートが付いている会社は何社ありますか。

大垣主査　　別冊で付いているのは、日本文教出版だけです。

藤井委員　　教科化されてから、学習の足跡が必要ということで、以前はもっとノートが付いているものが多かったように思います。日本文教出版のノートは簡素化されていますね。これがなかったら、何か別のワークシート等で見取っていくのだろうと思うので、あればいい面もあると思います。教科書の中身でいくと、各教材に考える視点が挙げられていたり、「つなげよう」でどのようなところで生かせるかを投げかけたりしてある光村図書がよいと思いました。日本文教出版と比べて見っていますが、目次にはどちらも学びの視点が明確に示されているので、大変よいと思います。光村図書は、「いじめをゆるさない心」とあり、いじめについてより明確に書かれているところもよいです。ノートでいくと日本文教出版ですが、発問を見ると光村図書が充実していると思いました。

森山委員　　光村図書と日本文教出版を見ました。内容的にはどちらもよいと思いましたが、光村図書には、より子供たちにとって身近な内容が掲載されていると感じました。また、見た目として、光村図書の方が読みやすいと思いました。

教育長　　日本文教出版はこぶしのマークで友達と話し合っって考えを深める場面が明確に示されていますし、「心のベンチ」というところで、他教科との関わりを示し、考えを広げていくようになっています。より深く学んでいける観点をもっている教科書なのではないかなという印象をもちましたので、私は日本文教出版を評価したいと思います。

森山委員　　先ほど教育長が言われた観点で見ると、日本文教出版には、みんなで議論して考えさせるという仕掛けがあると思いましたので、すごくよいなと思いました。

高橋委員　　道徳ノートが必要なのかなと考えていたのですが、ある方が自分の気持ちを整理できるのかなと思います。また、考える力も高まるのであった方がよいのかなと。

教育長　　それでは、採択に移りたいと思います。ご意見があった、光村図書と日本文教出版で決を採りたいと思いますがよろしいでしょうか。

(はいの声)

教育長 より適切だと思われる教科書に挙手をお願いします。

(日本文教出版に3名の挙手)

教育長 道徳の教科書は、日本文教出版を採択いたします。

長時間にわたり、ご審議いただきありがとうございます。これで議案第20号については終了といたします。

教育長 続いて、事務局から何かありますでしょうか。

和田係長 次回は、8月22日(火)13時30分から教育センターにて行いますので、よろしくお願いいたします。

教育長 以上をもちまして、令和5年第9回教育委員会会議を終了いたします。大変お疲れ様でした。